



2025年11月7日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

漢字圏出身の外国人は、日本語が上級でも 「やさしい日本語」理解の対応が遅れやすい —平仮名の読みの弱点を実証—

【発表のポイント】

- 日本に暮らす漢字文化圏出身の外国人にとって、平仮名表記の和語は理解に遅れが生じることを初めて実証しました。
- 漢字圏出身の日本語学習者は漢字を手がかりに日本語を理解しているため、平仮名表記では意味理解が遅れるのに対し、和語でも漢字が含まれていれば理解しやすいことを、単語理解の反応時間を中国語と日本語で比較する実験によって明らかにしました。
- 防災情報や行政案内を外国人に迅速に正しく伝えるために文化庁・出入国在留管理庁で提唱する「やさしい日本語」の表記は、読み手の母語の文字に応じて調整する配慮が必要であることを示唆する成果です。

【概要】

災害など緊急の際に情報を外国人に迅速に伝達し安全を確保するために、外国人日本語学習者が迅速に単語を理解できる要因の解明が求められています。

東北大学大学院文学研究科の趙雪含大学院生、同木山幸子准教授、成蹊大学文学部の熊可欣准教授（研究当時：学際科学フロンティア研究所助教）は、中国人上級日本語学習者を対象とした実験を通じて、漢字圏出身者にとっては「漢字を減らす」方針が、むしろ迅速な理解の妨げとなることを例証しました。実験の結果、母語で漢字を使う中国人は、日本語を理解する際にも漢字に強く依存し、「ごみ」など平仮名で書かれた和語より「硬貨」など漢字で書かれた漢語の方が速く理解できました。和語でも「紙くず」など漢字が含まれていれば速く理解できました。本知見は、外国語の読解の効率性は、読み手の母語によって異なることを具体的に実証するもので、外国人向けの行政や教育等の案内でも、読み手の母語に応じて表記を調整する必要があることを示唆します。

本研究成果は、2025年10月23日に国際学術誌 International Journal of Applied Linguistics に掲載されました。

【詳細な説明】

研究の背景

現在日本には 360 万人近くの外国人が暮らしており、とくに災害や行政に関する重要な公共情報の伝達において、効果的な方法を確立する必要度は増す一方です。文化庁・出入国在留管理庁が公表した外国人向けの日本語発信のガイドラインである「やさしい日本語」は、全国の各自治体で活用が拡大していますが、どのような日本語の表記法が理解しやすいかは、外国人の中でも決して同じではありません。

人は未知の言語を学ぶ際、既知の言語との共通点を手がかりとしながら、脳内に心内辞書 (mental lexicon)^(注 1)を形成していくことが知られています。日本に在住する外国人には漢字文化圏出身者が多くいますが、特に第 1 位の中国語を母語 (first language: L1)として日本語を学ぶ方 (以下、中国人日本語学習者)にとっては、第二言語 (second language: L2)^(注 2)の日本語を学習する時には、形態音節文字 (morphosyllabic script)^(注 3)である「漢字」という共通資源が意味を理解する強い手がかりとなり、非漢字圏出身者に比べて圧倒的に有利です。

しかし、日本語の漢字は中国語とは異なり複数の読み方があり、大きく分けて中国語由来の漢語の音読みと、日本語由来の和語の訓読みがあります。また日本語は漢字だけでなく、音節文字 (syllabic script)^(注 4)である仮名も使います。こうした日本語の語彙体系や表記法の複雑さにより、中国人日本語学習者が必ずしも L2 である日本語の語彙理解において有利とばかりはいえない可能性があります。災害など緊急の際に迅速に正確な情報を伝達し、外国人の安全を確保するためにも、外国人の日本語学習者が迅速に理解できる単語とそうでない単語がどのように決まるのかを明らかにする必要がありました。

今回の取り組み

日本に留学中の成人の上級中国人学習者 (日本語能力試験 N1 保持者) 23 名を対象に、彼らが L2 である日本語の単語をどの程度迅速に理解しているかを検証する実験を行いました。実験 (課題 1, 2) では、まず L2 日本語の単語 (「きのこ」等) を読んだ (課題 1) 後に、その単語の L1 中国語における翻訳等価語 (「蘑菇」等) を理解するまでの反応時間を測定しました (課題 2)。L2 日本語の学習が進み L1 中国語と関連づけられて心内辞書が形成されていれば、L2 日本語で先行して読んだ単語の概念が、後続する L1 中国語における翻訳等価語の概念を理解する助け (=促進効果) となり、語彙判断^(注 5)の時間が速くなると考えられます。この促進効果は、先行する L2 日本語の単語の語源 (漢語/和語) や、表記法 (漢字/平仮名) や、読み方 (音読み/訓読み) に応じてどのように変化するかを検討することで、中国人日本語学習者にとって読みやすい単語を決定する要因を解明できると考えました。

その結果 (図 1)、成人の中国人上級日本語学習者たちは、先行して L2 日本語

の漢字で書かれた音読みの漢語を理解すると、その翻訳語をL1中国語で提示された時に語彙判断の反応時間が速くなりました。この促進効果は、L2日本語の翻訳語先行提示なしの場合に比べて統計的に有意でした ($p < 0.001$)。

また、L2日本語の翻訳語先行提示が平仮名のみで書かれた訓読みの和語であると、漢字による漢語の場合に比べ、L1中国語の翻訳語判断の反応が有意に遅くなりました ($p < 0.05$)。しかし、先行提示が同じ訓読みの和語でも、漢字または漢字仮名交じりで表記されていれば、平仮名のみの場合のような遅延効果は生じませんでした。したがって、成人の中国人上級日本語学習者たちにとっては、L2日本語の語源や読みの問題というより、表記に漢字が含まれているかどうかの意味理解の重要な鍵となっていることが確かめられました。L1中国語と語源の異なる和語であっても、少しでも漢字が含まれていれば、彼らはそれを手がかりに迅速に意味を理解していることがわかりました。

これらの結果は、L1を中国語として獲得した後にL2として日本語を獲得し使用する場合、上級になってもL1の漢字に過度に依存し、その分平仮名から意味情報を得ていないことを支持する証拠です。彼らは、形態音節文字である漢字の書字情報を通して意味を理解しようとしており、平仮名の音韻情報から意味を理解する経路が比較的弱い可能性が示唆されます。

今後の展望

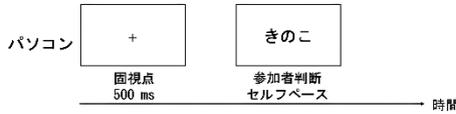
本知見は、今後日本にいる外国人の方々に情報発信をする際に、「やさしい日本語」で提案されているような漢字を避ける表現が必ずしも奏功せず、漢字圏出身者にはむしろ漢字を積極的に使用したほうが迅速な意味理解の助けとなる可能性を示唆しています。

ただし、日本語と中国語には同形異義語（「手紙」；中国語ではトイレトペーパーを指す）も存在するため、L1中国語の漢字知識に過度に依存すると誤解を生じる恐れもあり、今後「やさしい日本語」において積極的に使用すべき文字を、外国人のL1に応じて具体的に提案できるための検証が求められます。

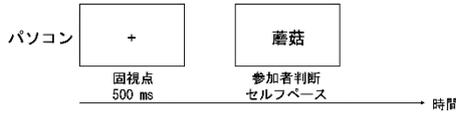
また、このような漢字への過度の依存がいつ頃から生じるかを探るために、本チームでは、現在在日外国人の子どもを対象とした同様の実験調査を実施しており、今回得られた成人の結果と比較していきます。さらに将来的には、アルファベット言語をL1とする外国人など、多様な言語背景の成人・児童の日本語学習者の単語理解についても検証を広げる予定です。

研究方法

課題1: L2日本語単語の意味理解テスト (概念判断課題)



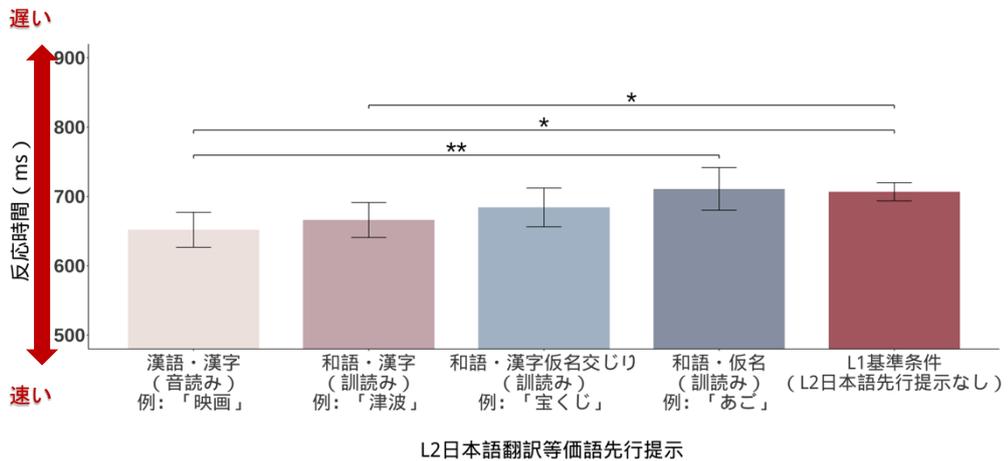
課題2: L1中国語単語の認識テスト (語彙判断課題)



反応計測手続き
(課題1・課題2の時系列フロー)

感染防止対策下での実験風景
(ミリ秒単位記録)

実験の結果



課題1 (L2日本語の概念判断課題) における単語タイプごとの、
課題2 (課題1のL1中国語における翻訳等価語の語彙判断課題) の
反応時間 (正答した場合のみ、単位はミリ秒)

注. * は条件間の統計的有意差を、各条件の誤差バーは95%信頼区間を示す。

図1. L2日本語読解時におけるL1中国語の漢字知識の利用度を検証する研究

【謝辞】

本研究は、日本学術振興会 (JSPS) 特別研究員奨励費 (22KJ0305)、若手研究 (21K12994)、及び科学研究費補助金 (19H00532, 24K00059) の支援を受けて実施するものです。研究にご協力くださった中国人留学生の皆様に深く感謝いたします。

本研究成果は、「東北大学 2025 年度オープンアクセス推進のための APC 支援事業」の支援を受けて公開されました。

【用語説明】

注1. 心内辞書 (mental lexicon)

人の脳に蓄えられている語彙の知識の体系。

注2. 第一言語 (first language: L1); 第二言語 (second language: L2)

L1 は「幼少期に家庭や地域社会の自然な言語環境で最初に習得した言語」、L2 は、L1 習得後に学校教育、日本国内での生活環境、または継続的な社会的使用を通じて学ばれた言語を指す。

注3. 形態音節文字

漢字のように、各文字が通常一つの意味単位 (形態素) を表すと同時に、音節 (あるいはそれに準ずる音のまとまり) を示す文字体系を指す。

注4. 音節文字

各文字が一つの音節あるいは拍 (モーラ) を表す文字体系を指す。例えば本研究で扱う平仮名では、「あご」と書く際には「あ」と「ご」がそれぞれ一音節ないし拍 (モーラ) に対応する。

注5. 語彙判断

提示された文字列が当該の言語における実際の語 (辞書に 載っている言葉) か否かを判断させる課題を指す。

【論文情報】

タイトル : Overreliance on Orthographic Similarity in L2-Japanese Conceptual Processing by L1-Chinese Learners

著者 : Xuehan Zhao, Kexin Xiong, Sachiko Kiyama

*責任著者 : 東北大学文学研究科言語学専攻分野 准教授 木山幸子

掲載誌 : International Journal of Applied Linguistics

DOI : 10.1111/ijal.70016

URL: <https://doi.org/10.1111/ijal.70016>

【問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学文学研究科

准教授 木山幸子

TEL: 022-795-5984

Email: skiyama@tohoku.ac.jp

（報道に関すること）

東北大学文学部・文学研究科

総務企画係 木村太一

TEL:022-795-6002/6003

Email: art-syom@grp.tohoku.ac.jp